

者が何等かの説明を施さねばなるまいが、それにしても觚の形態を詳かにしないので、ややともすれば木簡書の觚と青銅器の觚とを混同する嫌いがあるのである。

註1 王国維・簡牘檢畧考（芸文第三年第六号）。

2 東方学報東京第六号・昭和十一年。

3 便宜のため意識して引用した。以下この例が多い。

4 居延漢簡甲編（中国科学院考古研究所編・北京科学出版社刊・一九五九年）参照。

5 長沙發掘報告（中国科学院考古研究所編・北京科学出版社刊・一九五七年）参照。

6 ローマ時代蠟引書板については、杉勇氏の示教を感謝する。なおローマ時代の書物の諸様式についてはF・G・ケニオン著・高津春繁訳「古代の書物」（岩波新書一四七）を読みたい。

7 挿図五は全国基本建設工程中出土文物展覽図録（一九五五年）、また図版二は五省出土重要文物展覽図録（一九五八年）による。

8 水野清一・殷周青銅器編年の諸問題（東方学報京都第二十三冊・昭和二十八年）参照。

9 拙稿・支那杯の器形と用途とに就いて（民族第二卷第六号・昭和二年）。なお長沙出土の杯については註5の報告を見られたい。

10 青木正児・中国上代の酒器（大和文華第三十八号・昭和三十七年）参照。

前集東と西（八）古代毛織物雜考正誤

図版 ネーム東洋文庫学論叢の学を取る

一三頁 五行とすをとするに改める。

二二頁 七行目の〇の上に八行目の漢・月の二字が入る（漢・月氏）。

二三頁 註五行 Edit を Fedit に改める。